

令和7年度 第3回大宮駅東口駅前賑わい拠点まちづくり懇話会 会議録

■日時

令和8年3月27日（金）15時00分～17時00分

■場所

さいたま市大宮区役所2階 201・202会議室



■出席委員

足立 文	株式会社日本経済研究所公共デザイン本部 上席研究主幹
菊池 雅彦	埼玉大学大学院理工学研究科環境社会基盤部門 教授
岸井 隆幸	日本大学 名誉教授
長澤 悟	東洋大学 名誉教授
逸見 裕一	大門町3丁目自治会 会長
岡部 昌寿	仲町三丁目自治会 会長
小沢 正康	中央通り新栄会 会長
久世 晴雅	大宮小学校運営協議会 委員長
矢澤 学人	大宮小学校運営協議会 委員
佐藤 和宏	土地建物権利者
茨田 一矢	土地建物権利者
渡部 澄子	土地建物権利者
金子 芳久	経済局 局長
佐藤 久弥	都市局 局長
栗原 章浩	教育委員会事務局 副教育長
辻 美由紀	大宮小学校 校長

■出席オブザーバー

鐘江 正剛 独立行政法人 都市再生機構東日本都市再生本部 事業企画課 担当部長

■事務局

都市局 都心整備部

逸見（部長）、藤原（副理事）、金内（次長）

都市局 都心整備部 大宮駅東口まちづくり事務所

古谷（所長）、長谷川（所長補佐兼係長）、
加藤（主査）、大石（主任）、新井（技師）、四條（技師）

コンサルタント

株式会社国際開発コンサルタンツ（2名）

■関係所管

都市局 都心整備部 氷川参道対策室

神尾（室長）

都市局 都心整備部 東日本交流拠点整備課

小林（課長）、米田（主査）

教育委員会事務局 管理部 教育政策室

菱沼（室長）、小田嶋（参与）、田中（主幹）

教育委員会事務局 管理部 学校施設整備課

岡田（係長）、井上（主査）

教育委員会事務局 管理部 学校施設管理課

鳶田（主任）

教育委員会事務局 生涯学習総合センター

大城（副館長）、平林（係長）

■傍聴者

5名

■配付資料

次第、席次表、委員名簿

資料1 駅前賑わい拠点に導入する機能について

資料2 公民館のあり方について

参考資料 令和7年度第1回大宮駅東口駅前賑わい拠点まちづくり懇話会 会議録

■会議経過及び会議結果等

1. 開会

2. 議事

（1）駅前賑わい拠点に導入する機能について

（2）公民館のあり方について

委員	内容
事務局	<資料1について説明>
会長	前回は現地を見ながらひろばや賑わい機能のイメージを共有したところである。 本日は、民間事業者と連携して拠点整備を行うにあたり、導入機能の前提とすべき機能について意見交換をしていきたい。

茨田委員	導入が決まっている集約駐車場について、どのくらいの規模感を想定しているのか？
事務局	駐車場について、GCS側の開発ボリュームの検討から300台程度、加えて当拠点に必要な台数を合わせた台数の確保を想定している。 自転車駐車場については、現在と同規模程度（3,000台）を確保することを想定しているが、今後の需要等を加味して決めていくことになる。
佐藤(和)委員	駐車場の台数は余裕を持った台数なのか？また、りそな銀行裏の大規模駐車場が今後なくなることを考慮しているのか？
事務局	GCSで想定している駐車場台数は余裕を見ている数字ではない。また、りそな銀行裏の大規模駐車場がなくなることも考慮した数値である。
矢澤委員	多目的大空間についてどのような使い方を想定されているのか。見本市だと東京ビックサイトを想像できるが、スーパーアリーナや大宮ソニックシティがある中で施設整備の需要はあるのか？
事務局	見本市会場としての需要はあるのかについて、次年度市場調査を行い確認していきたいと考えている。 現時点の想定では、企業がブースを出したりするビジネス利用の他に、ドローンの操縦体験や学生のロボットコンテストなどのイベント会場としての利用、災害時には一時避難場所など、多目的な使い方を想定している。
会長	見本市会場に対するイメージが共有できていないため、「見本市」の表現を工夫できると良い。 今後、規模感はどのように出していくのか？
事務局	まちづくりプランのとりまとめに向けては具体的な規模感も出していきたい。そのため次年度には市場調査も予定している。
栗原委員	GCS側でもマンションができてくると、大宮小学校の児童数も増えてくることが想定される。小学校の規模検討ではそれらを加味した推計をしておく必要がある。
会長	小学校や多目的大空間、駐車場等の規模については、その適正規模を今後深掘りしていくことが必要である。
佐藤(和)委員	見本市の整備は個人的には反対である。見本市会場は外壁で囲まれ、外とのつながりが遮断されてしまう。小学校を含めて拠点一体で開かれた賑わい空間をつくってほしい。

久世委員	<p>さいたま市の顔としてふさわしいまちづくりをGCSで掲げているが、その顔とはどのような顔なのか。私は、駅から氷川参道につながる緑や水があり、そのつながりを多世代の方が体感し憩える場所であることが大宮の顔になるのではないかと考えている。</p> <p>2011年の東日本大震災時には、大宮小学校が防災拠点となって多くの方を受け入れた経緯があり、今後もそのような防災機能をきちんと拠点内に確保してもらいたい。</p>
菊池委員	<p>第1回懇話会での意見を踏まえ、機能の考え方を再整理してわかりやすくなったが、今後もう少し深掘りしていく必要がある。GCSを含めた機能の役割分担を行い、具体的なイメージを共有できるようにする必要がある。現在の機能の表現は抽象的であり、もう少し差別化して表現できるとよい。</p>
会長	<p>21ページでは3つの視点から当拠点が担う役割が整理されているが、何のためにその機能が必要なのか、その目的を追記できると理解が深まるのではないかと。</p>
足立委員	<p>GCSの方でも動きがある中で検討するのは難しいと思う。GCSとの役割分担を明確にするため、GCS側と対比して見せられると良いのではないかと。機能の規模を検討する段階においては、民間に任せるだけでなく、行政側としてどれだけ投資できるのかも合わせて考えていく必要がある。</p>
長澤委員	<p>機能、空間、防災面においてGCSとのつながりを意識して検討することがポイントになる。27ページでペルソナを設定しているが、子育て世代とシニアとの間にいる層の人たちの暮らしを豊かにする部分の考え方も考慮する必要があるのではないかと。</p> <p>また、拠点単体ではなく、周辺とのつながりを形成していくことも前提条件に表現できると良いのではないかと。</p>
会長	<p>これまでの小学校や公民館の枠を越えて、地域の学びやGCS、氷川参道とのつながりを受け止め回遊させる機能が必要であり、それは単にハコモノをつくれればよいということではない。エリアマネジメントなどソフト的な面も含めて考えていかないといけない。小学校や公民館の取扱いも時代とともに求められることが変わってきている。本日公民館について後半議論するが、小学校についても次回以降議論していきたいと思う。そのために地域に開かれた小学校の事例をまず見て、イメージを共有することからはじめ、それを踏まえて議論ができればと考えている。</p>

長澤委員	<p>学校建築はここ半世紀で大きく変わってきた。主たる課題は、多様な教育方法に対応する学びの空間づくりと、地域に開かれ、地域と連携する学校づくりの2つだったと言える。後者については、使われていない時間の多い学校施設を如何に地域のために有効利用するかということから始まり、社会の情報化や高齢化を背景に生涯学習の場として捉えられるようになった。その動きの中で、文部省も他の文教施設との複合化を課題とするようになり、今日では、これまで別々の施設体系として整備されてきた学校、図書館、公民館等を、地域の視点から見ると重なる機能があることから、連携を図ったり複合化したりする動きが出てきている。公共施設全体が老朽化が進んでいる状況に対して、少子化の進展も見据えながら、公共施設マネジメントとして一体的に整備することが課題となっており、そのためにセキュリティの確保と、施設管理や利用システム等の運用の両面を考慮した検討が各地で進められている。</p> <p>例えば志木市立志木小学校や立川市立第一小学校など、小学校と公民館、図書館、学童保育施設等を一体的に整備した事例などが、子供と地域の学びや活動の両面から実現されている。</p> <p>本計画は開発エリアの中に小学校が含まれていることが大きな特徴であり、学校施設を単体としてではなく、校地や学校施設を如何に効果的に配置し、施設の活用を図るかが重要と言える。同時に学校教育や児童の発達という点から、学校単体では用意することが難しい教育機会を用意でき、豊かな成育環境を確保できるかがポイントになると考えられる。</p> <p>また、敷地の有効利用やセキュリティの確保という点では、グラウンドの立体配置も想定され、そうした事例を実際に見て、イメージを共有しながら可能性や配慮が必要な点について議論が深められるようにすることが有効と思う。近場の事例としては渋谷区の上原中学校や港区の白金小中学校等が挙げられる。</p>
会長	次回、地域に開かれた小学校やグラウンドを立体配置した事例を見に行くことでよいか。
委員一同	賛成である。事務局は視察に向けて準備を進めてもらいたい。
茨田委員	事例視察においては現地を見るだけでなく、実際にどのように運営されているのかも含めて確認したい。
事務局	<資料2について説明>

逸見委員	<p>大宮区役所の図書館はとても評判がよい。1階からのつながりがスムーズで、図書館を気兼ねなく利用できる、そのような曖昧な使い方が許される空間づくりが大事なのだと思う。</p> <p>現在の公民館はあつという間に予約で埋まってしまい、使いたいニーズとボリュームがあっていない。そのため町内会で使おうとしてもなかなか使えないのが実情である。当該拠点の整備の中に気軽に使えるような空間を設けてもらいたい。</p> <p>資料1の27ページで検討しているペルソナは、男女や年代による行動を考慮して設定されている。一方で、本懇話会の委員をみると女性は少ない。今後の検討においては幅広い方の意見を取り入れられる場を設けてもらいたい。</p>
辻委員	<p>最近、大和田小学校が新しくなり、一部教室を地域と共有していると聞いている。現在の大宮小学校でも家庭科室を社会福祉協議会のイベントに際して地域に開放している実績もある。小学校に必要な機能を確保した上で、地域と共有できる場を検討していきたい。検討に際しては、何を地域と共有し、どのように管理するのかを考える必要がある。</p>
会長	<p>現在の大宮中部公民館はいくつの小学校、中学校をカバーしているのか？</p>
事務局	<p>大宮中部公民館としては、2つの小学校、2つの中学校をカバーしている状況である。</p>
会長	<p>大宮小学校以外にカバーしている小中学校があるのであれば、そこに対しても意見を聞いていく必要があるのではないかと。</p>
久世委員	<p>公民館は高齢者には使い勝手が良いが、子育てをしている親の使い勝手を考えていく必要がある。近年大宮は住みやすい地域に選ばれ、多くの子育て世代が流入してきている。学童の問題もあり、大宮小学校では現在3教室を使って学童を運営している。</p> <p>地域の実情を勉強してもらい、地域と一緒にこれからのあり方を検討するような場を別に設けてもらいたい。他の地域から視察に来るような公民館をつくってほしい。</p>
会長	<p>豊島区の南池袋公園や、千代田区の丸の内仲通りなど自然と人の流れが生まれており、子育て世代のネットワークによるところが大きいと感じている。そこにアプローチすることも大事かもしれない。</p>
佐藤(久)委員	<p>余白をどのように考えていくかが大事だと、今回の意見を聞いて改めて感じたところである。余白についてはハード整備も伴う。100年</p>

	先を見据えてどのような空間づくりが必要なのか考えていきたい。今後引き続き議論ができるような場を設けていきたい。
茨田委員	神奈川県大和市に文化創造拠点シリウスがある。ホールや図書館等の機能が複合化され、充実した空間が形成されている。本拠点のイメージに近いのではないかと考えている。
菊池委員	先日シリウスに関して関係者にヒアリングしたところであった。縦割り行政の中でどのようにしてあのような空間が生まれたのかを確認したところ、まちづくり部が主体となり各部局と調整した結果であるとのことであった。整備プロセスも含めて勉強していく必要がある。
長澤委員	公民館の連携についてイメージが示されているが、1人、数人、大人数など、集団の大きさや居方などニーズの違いに応じた居場所をどのように作るのかも1つのテーマとして捉えて考えてほしい。
会長	今回の議論の中で、個別にこの機能はダメであるというものはないかと理解しているが、「地域に開かれた」や「みどり」、「居場所」など、機能や配置を検討するヒントが出てきたと思う。これをもとに来年度も引き続き議論をしていきたい。 まずは来年度早々、小学校や公民館が複合した事例や小学校のグラウンドが立体配置された事例の視察に向けて事務局は準備をお願いしたい。
事務局	承知した。視察に向けて具体的な企画を検討する。企画ができ次第皆さんに情報提供させていただくので、多くの皆さんに参加いただけたらと思う。

3. 閉会